



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 7月号
平成28年6月30日
横浜市立旭小学校

「妙高」より

学校長 加藤 和之

学校のプールに子どもたちの声が響く季節となりました。夏本番が近づく中、子どもたちは毎日の学校生活を送っています。さて、ご存知の通り旭小学校では宿泊体験学習の充実に力を入れています。5月の4年生の「野島」(1泊2日)を皮切りに、6年生の「妙高」(4泊5日)、5年生の「御殿場」(2泊3日)と高学年の宿泊体験学習が続きました。宿泊体験学習を終えて学校に戻ってきた子どもたちの表情からは、活動が楽しく充実していたことがうかがえます。様々な面でのご協力、ありがとうございました。

私は、6年生の「妙高長期宿泊体験修学旅行」の引率をしました。5日間のプログラムはどれも充実していて、お話ししたいことはたくさんあるのですが、その中から今年初めて実施した「ナイトハイク」と「テント泊」のことを書かせていただきたいと思います。

3日目の夜、「ナイトハイク」でクラス毎に真っ暗な小径を歩きます。私が一緒に歩いた学級では、丘の上の草原にみんなで輪になって寝そべりました。耳を澄ますと、聞こえてくるのは風の音、葉のこすれる音、虫の声など、自然の音だけです。曇り空だったので星は見えませんでした。ゆったりと流れるこの時間が、何だか愛おしく思えてくるのです。この広い世界の中、今こうしてみんなでいることの奇跡を感じずにはいられませんでした。子どもたちもきっとそれぞれの感じ方で、この素敵な時間を過ごしていたことと思います。そして、いよいよ「テント泊」です。妙高の自然を感じながら、友達同士テントで身を寄せ合って眠るという忘れられない一夜になる...はずでした。曇っていた空が、日が変わる頃から急速に晴れ、満天の星空が広がりました。ところが同時に、ぐんぐんと気温が下がり始めたのです。雲が取れたことにより「放射冷却」が起き、気温が一気に10度以上下がったということでした。私たちは、気温が下がるということを想定し、長袖・長ズボンを着用するよう指導していたのですが、この夜の気温の低下は私たちの想定を大きく超えるものでした。そして、子どもたちの健康を考え、宿舎に戻るという決断をしました。今までに見たことのない(テントの中では見られない)満天の星空の下、「真夜中の大移動」となりました。翌日は起床時刻を遅らせて睡眠時間を確保し、予定通りに活動を進めることができました。昨夜の寒さが原因で体調を崩した子がいなかったことが幸いでした。

このように、たくさんの素敵な時間と、時には「ヒヤッ」とするような「ドラマ」があって、今年の「妙高」も「大成功!」で幕を閉じました。

横浜から遠く離れた「妙高」だからこそ、それも4泊5日だからこそ体験できることがたくさんあります。「源流探検」などでは、体全体を使って自然とふれ合うことができます。「野外炊事」や「キャンプファイヤー」では、仲間と協力することの大切さを学びます。自分たちが使った物や施設を今まで以上に綺麗にして次に使う方に渡す「思いやりのリレー」は、公共性を養うことにつながります。このような豊かな「体験」は、長期だからこそできるものです。そして、旭小が大切にしているのは「仲間づくり」です。5日間も寝食を共にしていると、どうしても人間関係でのトラブルが起こります。普段は見えなかった友達の「素」の姿も見えてくるでしょう。そんな時、職員は「折り合いを付ける」という柔軟さ、寛容さが身に付くよう支援します。自分だけでなく、いろいろな友達と一緒に生活するということがどういうことなのか、身をもって学んでほしいと思うのです。私たちは、事前に「困らないように環境を整えてあげる。」のではなく、「困ったときに、どう乗り越えるかを考えられるよう支援していく。」という姿勢で子どもたちと向き合います。それが、子どもたちが「たくましさ」と「しなやかさ」「優しさ」を身に付けることにつながり、きっと将来にわたって生きる力となると思うのです。子どもたちにとって、ただ「楽しい思い出」ではなく、たくさんの「学び」のある「一生ものの思い出」になるように、これからも取り組んでいきたいと考えています。

「宿泊体験学習」を通して、一回り大きく成長した4~6年生の子どもたち、学んだことをどのようにこれからの学校生活に生かしていくのか、楽しみにしながら見守っていきたく思います。